

平成 24 年度施策パッケージヒアリング資料

(人材育成/基礎研究) **【經濟産業省】**

	施策パッケージ番号	271005	領域	ライフイノベーション	施策パッケージ名	基礎研究から臨床研究への橋渡し促進技術開発	
施策パッケージの目標	第4期科学技術基本計画で掲げられた、医療・健康サービス等の産業を活性化することによる、我が国の持続的な成長と社会の発展の実現に向けて、2020年までに革新的医薬品、再生医療技術の実用化を実現する。						
目標実現に向けた具体的アプローチ	目標実現に向け文部科学省、厚生労働省、経済産業省の各省が連携して臨床へつなげていく研究（橋渡し研究）を行う。文科省は大学・大学病院等の整備や基礎研究の推進を担い、厚労省は国立病院等の整備や国民の健康増進の観点に立った臨床研究等の推進を担っている。経済産業省は、主に経済活性化の観点から、様々な産業技術を活かした研究開発を実施し、産業発展に資する共通基盤的な技術の開発を推進している。 本事業は提案公募型事業であり、平成24年度は以下3つの継続事業のみ実施する。 ①「がん細胞に発現する必須アミノ酸トランスポーター（LAT1）を分子標的とする新規抗がん療法の開発」 がん細胞の生存や増殖に必要なエネルギーを、細胞内に取り込む経路を遮断することによってがん細胞を死滅させる、画期的な抗がん剤候補薬の臨床研究を行なう。 ②「腸管下痢症経口ワクチンの研究開発」 米の中でワクチンを作る新しい薬剤製造法を開発し、常温保存可能な、注射針を使わない経口投与できるワクチンの臨床研究を行う。また、様々な感染症に対するワクチンにも応用する。 ③「高密度スキャフォールドフリー脂肪由来幹細胞構造体を用いた骨軟骨組織再生の臨床研究」 患者自身の脂肪から立体的な骨と軟骨が同時再生できる技術を開発。この技術を変形性関節症患者へ臨床研究し、再生医療の実用化を促進する。						
パッケージ内の個別施策	施策名	概要及び到達目標・時期			H24当初合計額 (H23) (百万円)	期間	実施機関
	基礎研究から臨床研究への橋渡し促進技術開発	本事業では、ベンチャー等の民間企業と臨床研究機関が一体となって臨床へつなげていく研究を行う。橋渡し研究拠点等を活用して行う医薬品、医療機器、診断ツールの開発や、新たな医療技術・医療システムの有効性・安全性等評価手法の確立を推進する。平成24年度継続事業については24年度に臨床試験を開始し、早期の新薬承認を目指す。			400 (615)	H19～24	大学、民間企業など
施策パッケージ全体予算額 (百万円)	H24当初要求額合計(復興、要望枠を含む)				400		
	うち運営費交付金				0		
期間	H19-H24		資金投入規模(億円)		140		
実施体制	①トランスポーター（各種細胞膜輸送タンパク質）等の特許を有するジェイファーマ株式会社を中心となり、群馬大学などと連携し新技術で新薬を創製する。 ②研究開発指向型エムジーファーマ株式会社を中心となり東京大学等と連携してコメワクチンの開発を行う。 ③細胞構造体製造の特許を有する株式会社サイフューズが中心となり、九州大学と連携して骨軟骨再生医療の実用化を目指す。 NEDOのマネジメント能力を活用するとともに、事業者へのヒアリングや、採択テーマごとに年2回開催する研究開発進捗報告会での議論を聴取することにより、事業の状況を把握している。中間評価を行い、必要に応じて事業の効率化を図る。						
施策パッケージ責任者	経済産業省製造産業局生物化学産業課 課長 斉藤 群						
施策パッケージの目標実現への向けた現状分析	高齢化が進展する中、がんのような成人性疾患に対する新たな医療技術の確立が、健康の増進のみならず経済的な観点からも望まれている。その実現のためには進展著しい医療分野の多様な要素技術や基礎的な研究成果を、創薬、創薬開発を支援する解析機器、診断技術、医療機器等の開発に、迅速につなげていく必要がある。 しかしながら、現状では、基礎研究の成果を応用技術につなげるための連携体制や基盤等が十						

	分整備されていないため、本事業を通じて、関係省庁の連携のもと、民間企業と大学病院などの臨床研究機関が一体となって、臨床への橋渡し研究や臨床研究を行うことが重要である。
--	---